

イギリス植民地から独立したスリランカの文化面で、独自のアイデンティティを確立し、多大な影響を及ぼした。

彼女は最近、故人となったが、工房で働いているのはすべて彼女の生前から働いていた職人たちで現在も彼女がデザインしたものを忠実に再現し続けている。パティックだけでなく、イーナは刺繍やジュエリー、服飾など様々なものを生み出し、特に子どもたちの結婚式はとても素晴らしい装飾に飾られていた。工房の作業を一通り見てから、先の女性のところへ戻ると、工房の様々な作品が並べられていた。ろうけつ染めの作品は、スリランカの有名ホテルにはほとんど必ず飾られているようで、サイズが大きく値段もそれなりだった。もしこのデザインでということになると、注文を受けてから作るようで、最小サイズが1辺1フィートからだそうである。しかし小さいサイズでは、デザインの細かいところが省略されてしまう。やはりある程度大きいものを注文したほうがいい。今回はパティックで染めた布にさらに細かい手刺繍やアップリケを施した、クッションカバーと携帯やメガネ入れになる袋物を買った。そのあと、すぐ近くのBABA工房にも行って見たが、こちらは観光客が土産用に買い物に来るところで、キャンディ・ペラヘラや、スリランカの風景、動植物がテーマで、金糸の縫い取りのあるものが美しいが、以前より全体的に質が落ちたと感じた。次回は、もっと良い工房を探し当てたいものだ。



スリランカの驚きは書ききれない。今回はここまでにして、スリランカ仏教徒の挨拶の言葉を覚えてほしい。シンハラ語でBudu saranai（ブッダに帰依します）、Teruwan saranai（帰依三宝）。メールの最後に書き添えても素敵です。

【編集部より】

松村先生の新書『真理の言葉の物語集—ダンマパダ・アッタヴァンナナー和訳』全4巻が8月ごろ国書刊行会より出版予定です。面白くためになる物語がいっぱいです。是非お買い求めいただければ幸いです。

○《書籍情報》

・『お寺の掲示板』

江田智昭/著 (新潮社、2019年、1100円)

「おまえも死ぬぞ」「人生が行き詰まるのではない。自分の思いが行き詰まるのだ」。全国のお寺の門前の掲示板の言葉を写真で紹介し、仏教の教えを伝える。『ダイヤモンド・オンライン』連載を加筆し書籍化。各所で話題沸騰中!

・『ケネス タナカの仏教室』

ケネス・タナカ/著 (I-III、2017-2019年、非売品)

浄土真宗證誠山嚴念寺で2017年から2019年に開催されたケネス・タナカ氏による全28回の連続講座。その講演録をPDF化。下記ホームページより閲覧可能。  
<https://www.gonnenji.com/>

・『はじめての韓国仏教 歴史と現在』

佐藤厚/著 (佼成出版社、2019年、2200円)

日本へ仏教を伝えた韓国。韓国仏教の特徴や日本仏教との違いを図表や写真、コラムを豊富に交えてわかりやすく解説する。現代の北朝鮮の仏教事情についても紹介する。重要な人物、寺院、韓国語の『般若心経』なども収録。

・『初期仏教における聖典成立と修行体系』

ターナヴットー・S.W./著 (山喜房佛書林、2019年、8800円)

本書は初期仏教の歴史及び修行に関するものであり、仏滅年代、律蔵の成立、パーリ語の故郷、経蔵の成立、八正道などの修行道を論じている。そこに用いられる手法と導き出された見解は、新機軸を打ち出すもので、初期仏教にとどまらず、その分派後も含む仏教全般を研究する上で、必見の内容となっている。

・『仏教の聖者 史実と願望の記録』

船山徹/著 (臨川書店、2019年、3300円)

仏教の歴史のなかに聖者はいたのか。仏教史に名を残す学派の祖師や学僧たちは、どのような修行を行い、いかなる宗教的階位に到達したのか。原典資料を読み解き、仏教の聖者観を根本から問い直す。巻末に基本用語集も収録。

船山氏の編集による『シリーズ実践仏教』(臨川書店、全5巻)も2020年1月より順次刊行中。

・『般若経の思想』

渡辺章悟/著 (春秋社、2019年、2640円)

「般若」の名を有する多くの経典は、どのように生まれ、発展し受容されたのか。〈空と智慧の経典〉は何を説くのか。大乘仏教の始まりと共に誕生し、幅広く展開された般若経について解説する。

・『般若心経註釈集成〈中国・日本編〉』

渡辺章悟・高橋尚夫/編 (起心書房、2018年、10560円)

インドから帰った玄奘三蔵の漢訳により、広く流布した『般若心経』。本書は、東アジア仏教の基本が確立した唐代と、それを承けた奈良・平安時代の註釈から唯識では玄奘門下による2本と、中観・華嚴・天台・禪・密教の6本を和訳し、解説を加える。東アジアにおける『般若心経』解釈の広がりを展望する一冊。

○《イベント》

・特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」

世界遺産・法隆寺。その西院伽藍の中心をなし、世界最古の木造建築である金堂には、およそ1300年前の飛鳥時代に描かれた壁画がありました。2020年は、法隆寺金堂の火災をきっかけに、1950年に文化財保護法が成立してから70年となる節目の年です。本展では、「法隆寺金堂壁画」の優れた模写や、焼損後に再現された現在の壁画、そして日本古代彫刻の最高傑作の一つである国宝・百済観音など金堂ゆかりの諸仏を展示します。法隆寺金堂の美の世界を体感していただくとともに、文化財を保護し継承することの大切さを伝えていきます。

日時：3/17(金)～5/10(日) 午前9時30分～午後5時まで  
(入館は閉館の30分前まで、会期中の金曜・土曜は午後9時まで閉館)  
毎週月曜休館(ただし3/30・5/4は開館)  
観覧料：一般1200円 大学生600円 高校生400円 中学生以下無料  
会場：東京国立博物館 本館特別4室・特別5室  
(東京都台東区上野公園13-9)

・西国三十三所 草創1300年記念  
特別展「聖地をたずねて—西国三十三所の信仰と至宝—」

西国三十三所草創から1300年。これを機としてゆかりの深い京都の地で、特別展を開催いたします。今もなお、老若男女、国籍を問わず、人々をひきつける巡礼の魅力を、美しい観音菩薩の姿や各札所の寺宝を通じてご紹介いたします。観音信仰とともに守り伝えられてきた至宝の数々をご堪能ください。

日時：4/11(土)～5/31(日) 午前10時～午後6時まで  
(入館は閉館の30分前まで、会期中の金曜・土曜は午後8時まで閉館)  
毎週月曜休館(ただし5/4は開館)  
観覧料：一般1600円 大学生1200円 高校生700円 中学生以下無料  
会場：京都国立博物館 平成知新館(京都府京都市東山区茶屋町527)

・春期特別展「ブッダのお弟子さん—教えをつなぐ物語—」

日時：4/18(土)～6/14(日) 午前10時～午後5時まで  
(入館は閉館の30分前まで)  
毎週月曜休館、会期中に休館日あり。  
観覧料：本誌執筆時未定  
会場：龍谷大学ミュージアム  
(京都市下京区堀川通正面下る 西本願寺前)

編集責任者：梅田愛子  
(東洋大学大学院博士後期課程)

東洋大学仏教会

卒業生、一般：年会費3000円、特別賛助一口5000円

東洋大学仏教会事務局 幹事&HP管理 石川美恵

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

東洋大学インド哲学科第8研究室 気付

Tel: 03-3945-7393(-7357) E-mail: tba.bussei@gmail.com

東洋大学仏教青年会

学生：年会費1000円

東洋大学仏教青年会会長 板敷真純

s41201400013@toyo.jp

URL: <http://www.toyo-yimba.org>